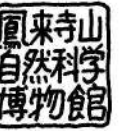


ありがとうございました



興味つきないふるさとの大地

新城市は、市の中央部を北東から南西方向に通る中央構造線を境にして、地質の構成が大きく2分されます。

中央構造線とは、西南日本を北側の内帯と南側の外帯に区分する

総延長1000kmにも

及ぶ大断層線です。

新城市では、中央構造線を境に北西側が内帯の領家変成帯になります。内帯には、高温低圧型の変成岩類や花崗岩類が分布し、それらを基盤として、その上に約1800万年前に堆積した海成層と、約1500万年前に活動した火成岩類が積み重なっています(設楽層群)。

南東側の外帯には、低温高圧型の変成を受けた結晶片岩類と、みかぶ緑色岩類などが分布しています。また、中央構造線沿いには、断層岩や阿寺七滝礫岩層などが複雑に分布しています。

260万年よりも新しい時代になると、豊川やその支流、作手高原に段丘や沖積層を形成しました。

このような変化に富んだ大地にくらしていることにワクワクします。

新城市は合併を記念して

- 市の花「ササユリ」
- 市の木「ヤマザクラ」
- 市の鳥「コノハズク」
- 市の石「松脂岩」
- 市のカエル「モリアオガエル」

を制定しました。豊かな自然に恵まれた市にふさわしいものです。さらにホソバシクナゲやホウライジギセルなど、この地域の固有種もあり、かけがえのないものです。動植物、地形・地質の宝庫といえる私たちのふるさとの自然を大切にしていきたいです。

定年を機に「はくぶつかんだより」を終了し、その後始めたのが「博物館ザッ記」でした。日常の記録以外に自由な内容の雑記として描いて5年になりました。はくぶつかんだよりの開始から数えると、36年間という長期にゆたり描かせていただきました。幼稚な絵と文の内容にもかかわらず、温かい心で見守ってくださり、これまで続けることができました。開館60周年と退職の節目がうまく重なり、筆を置くのにとっても良いタイミングとなりました。ご愛読くださった皆さま、たよりを書く時間を与えてくれた博物館に心から感謝します。ありがとうございました。

かんばる博物館

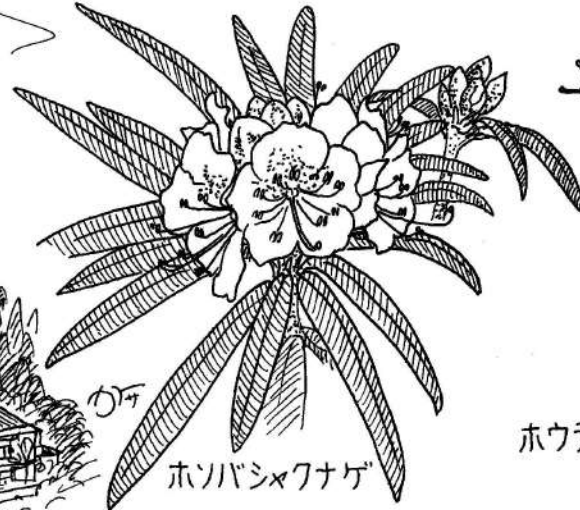
国指定名勝天然記念物の「鳳来寺山」の山麓に建つ鳳来寺山自然科学博物館は、昭和38(1963)年開館です。

愛知県内に博物館が11館しかない時代でした。そこから歴史を重ね

令和5(2023)年に60周年となり、還暦を迎えました。

地域に根ざし、愛される博物館をめざし「人と自然の架け橋となる博物館」「地域・社会に貢献する博物館」「みんなで創り育てる博物館」

を目標にこれから先も日々努力していかねばなりません。



ホウライジギセル

ホソバシクナゲ

お世話になった相棒

愛用のロットリングペン
0.1mmと0.2mm



愛用の消しゴム
小さくなると出席印になりました。

5mm方眼トレーシングペーパー